◆発掘調査とコラボレーションした社会教育事業◆

新冠小学校６年生の「遺跡発掘体験」（令和７年７月８日開催）

社会科の授業で歴史を学ぶ小学校６年生が発掘体験をしました。埋蔵文化財センターの全面協力により、丁寧なご指導をいただきながら行われました。すると、短時間で約 15 個もの土器のかけらや石器など見つかり、子ども達の観察力の高さがうかがえました。「もっとやりたかった～」という声が聞かれました。

町民対象の「遺跡発掘見学会」（令和７年８月 27 日開催）

遺跡環境を目の当たりにしながら、じっくりと大昔の歴史を学ぶスタイルで開かれました。平日にも関わらず、約 30 人もの方々がグループに分かれて観察しました。埋蔵文化財センターの説明に熱心に耳を傾けるとともに、鋭い質問を投げかけていました。感心の高さが垣間見えました。

（公財）北海道埋蔵文化財センターからメッセージをいただきました

新冠町の皆さまの理解とご協力に感謝しています。この発掘調査の成果が縄文時代のくらしを解明し、新冠町の歴史を語る成果となるよう取り組んでいます。日高自動車道の工事が遺跡を発見する契機となり、自動車道で発展する未来と、埋蔵文化財が伝える過去が、いま現在でつながっています。

また、日高自動車道が完成し、この地点を通過する際には「ここに遺跡があった」「縄文人が暮らしていた」と感じていただければ幸いです。町内での発掘調査に関心を寄せてくださる方が多いのは、新冠町ならではの特徴です。調査は今後もしばらく続く予定ですので、さらに多くの方に知っていただきたいと思っています。

（公財）北海道埋蔵文化財センター
新家水奈課長（左）と末光正卓主査（右）

◆発掘調査はなぜ、どのようにして行うの？◆

これら文化財は「文化財保護法」という法律で保護されています。そのため、埋蔵文化財である遺跡が道路工事などでなくなってしまう可能性がある時、発掘調査によって遺跡の内容を明らかにし、記録保存することになっています。今回、高規格道路の工事に伴って新しい遺跡が発見されました。そのため、遺物を発見するとともに、どんな遺跡であるのか記録して明らかにするのが今回の発掘調査の目的となります。調査で得られた記録を整理・分析して、遺物の「保管」と記録の「報告書」を刊行して調査事業は終了となります。

地層の様子を見ながら掘ります。白い層は江戸時代の火山灰層だ。この下の層に何かあるかも！

調査員の指示のもと、作業員さんが少ずつ掘り下げていく。何か発見できますように…

土器のかけらがいくつか出てきた！パズルのようにくっつけたら形になるかもね。地中から出てきた土器などは「遺物（いぶつ）」といいます。

これは縄文人が掘った溝だ！いったい何のために掘ったのだろう？このような溝は「遺構（いこう）」といって記録をとります。